

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170200150		
法人名	有限会社 在宅介護お世話宅配便		
事業所名	グループホーム お茶ばたけ		
所在地	佐賀県唐津市東山801-280 (電話) 0955-75-0281		
評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝1丁目1224番2		
訪問調査日	平成 20年3月10日	評価確定日	平成 20年4月25日

【情報提供票より】(平成20年1月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	7 人
職員数	24 人	常勤 3 人, 非常勤 21 人, 常勤換算 9.4	

(2) 建物概要

建物構造	木造	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有(84,000 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要(1月28日現在)

利用者人数	7 名	男性 0 名	女性 7 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名
要介護3	0 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 81 歳	最低 72 歳	最高 89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 希清会 岩本内科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然豊かなお茶畑の中に立つ、のんびりとした雰囲気、入居者本位の生活支援がされている。同法人職員が集まり月に一度、勉強会や研修会を行い、職員同士が他事業所との壁を越えた交流がされている。法人の「関わり合って育ち合おう」という理念のもと、ホームでは、「地べたからの介護」に取り組みされており、ベットの用いず、椅子は必要最小限の利用で入居者が床からの立ち上がりからの体作りをしていくことの理解が職員にされており、実践の成果に職員の自信がみられる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の意義を職員が理解し、改善に向けた意見交換を行ない改善している。また、評価は事務室に資料として整理し職員がいつでも閲覧ができるようになっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ホーム職員全員に自己評価票を配布し、各人で評価を行い、その後ホームの会議で意見をまとめ、今後のケアに活かしていくよう取り組まれている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1度開催され、ホームからの報告と地域からの意見について検討されている。今後は会議で協議した意見を地域での交流会や協力体制に活かし、また会議への参加者も幅広く増員し、さらに内容の充実を図る予定とのことで、更なるサービスの質の向上が期待される。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月入居者の状況を写真と文章で個別に報告がされており、必要に応じて電話での報告もされている。また、家族へのアンケート調査や家族会の開催を行い、積極的に意見・要望を聞いている。意見や要望に対しては、ホームでの会議で検討し、改善に取り組まれている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事へ参加したり、ホームでの行事に地域の人々へ参加を呼びかけるなど、積極的に地域と交流している。日常の散歩で、ごみ拾い等を行い地域への貢献に務めている。また、「茶ばたけ合唱団」を結成し地域の行事等で出演をするなどホームの中にとどまらず、社会参加を多く持たれている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	お客様・スタッフ・社会貢献という三方に向けて善をなすという「三方善」の考えのもと、基本理念を作成し、リビングルームに掲示されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月に一度の法人全体での会議では、理念の唱和をし、確認を行っている。また、いつでも見ることができるよう、職員は理念のメモを常に携帯している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	積極的に地域の行事参加、グループホームの行事の参加を呼びかけている。また、自主的に地域のごみ拾いや清掃も行ない、地域貢献に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全員で自己評価に取り組み、意見がまとまるように会議を行い、今後のケアに活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回地域住民や地域包括の職員、家族等の参加のもと実施され、ホームの取り組みの報告や、地域活動についての意見交換がなされ、サービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の地域包括支援センターへは法人内の職員が出向しており、常に市との行き来はあり、情報の交換ができている。また、市からの介護相談員の受入れを行ない、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月個人ごとに独自の新聞等の報告を行なっている。必要があれば電話連絡も行なっている。今後はさらに映像などの方法も検討されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見を聞くために、苦情箱を設置したりアンケート調査を行っている。また、家族会を年に2回行い、そこでの意見は改善策を検討し、改善できるように努められている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホーム職員のみで入居者のケアにあたるのではなく、日ごろから法人全体の職員で対応し、異動があった場合でも入居者に支障が無いような協力体制を作りをしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で定期的に研修を行なっている。また、法人全体での研修会・幹部研修会・外部講師を招いての研修会等を行うなど、盛んに取り組まれている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会社内の他事業所との交流は頻繁にされている。また近隣の事業所との交流を深めるため、市にネットワーク作りの発足を依頼するなど取り組まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の際は、家族と話し合いをし、入居までは昼間、グループホームに来てもらい、雰囲気慣れてからの入居を促している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	当たり前の生活の中で、共に食事を作るなど、日頃のケアの中で支えあう関係作りを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が入居者の言葉を傾聴し、尊重したケアがおこなわれている。また、家族からも入居前の生活歴など聞き、ケアに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や本人に直接話しをし、希望を聞いて計画を立てている。また、職員での会議の場で、計画についての話し合いがされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月ケア会議を行い、3ヶ月毎に計画の見直しをしている。また、急な体調変化などがあつたときは、その都度話し合いをされ、計画を見直されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じ、買い物や外出支援を行っている。また、自宅等への外出支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者自身の希望するかかりつけ医に受診し、職員が付き添いを行なっている。また緊急の場合に適切な指示を受けられるよう、医療機関との連携がとられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期については入居時に話され、実際その状況になったとき書面で同意を取られている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報、書面で同意を取られている。また、入居者に対する言葉かけは、丁寧な言葉使いで対応されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活に合わせた対応がされている。また、散歩など自由に希望にあわせた支援がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れ、同じテーブルを囲んで職員と共に食事をされている。また、食事の内容や皿の色にも気を配り、見た目にも楽しめる工夫がされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴でき、夕食前後にでも入浴ができるようにされている。また、浴室内も入居者が安全に使用できるように手すりなど工夫されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外出・家事・家族のかかわりが盛り込まれている日課計画は個人ごとにあるものの、それにこだわることなく支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物、希望の場所など、入居者の希望により、自由に外出ができるようにされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	常に玄関は開放されており、職員が日常生活の中で入居者の行動に気づく見守りをされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年に4回行なわれている。消防訓練は同法人の他事業所と共同で行なわれている。運営推進会議で災害時の地域との連携について話をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の栄養士が献立のチェックをしており、調理に関する相談ができる体制ができている。食事量や水分摂取のチェックもされ、把握されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感、季節感の感じられる共用空間がつけられている。また、畳での生活を主体に取り組まれているが、身体機能に配慮し、椅子の配置もされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた家具など自由に持ち込みができ、その人らしい部屋づくりがされている。		